

拡大が進んだブラジルの対中貿易

吉岡 武臣 *Takeomi Yoshioka*

(財) 国際貿易投資研究所

要約

2008 年のブラジルの貿易額は輸出入ともに過去最高額を記録した。価格が高騰した一次産品が輸出額を押し上げ、好調な国内経済は乗用車などの耐久消費財を始めとした輸入増を牽引した。ブラジルの貿易相手国は主に米国、アルゼンチンが中心であったが、近年は中国との貿易が急速に拡大している。対中貿易はブラジルからの輸出が一次産品、中国からの輸入が電気・機械関連の部品という補完関係で大きく拡大してきた。しかし、人民元に対するレアル高傾向は中国製品の競争力を強め、輸入部品の中国シェア増加のほか、米国やアルゼンチンといった海外市場でブラジル製品を不利な状況に立たせることとなった。

世界的な経済減速の影響は 2009 年に本格化すると見られ、ブラジルの貿易も縮小するであろう。今後の対中貿易は一次産品の価格やレアル安に転じた為替レートが動向を左右する大きな要因と考えられる。

＜一次産品が輸出を牽引するも、
貿易黒字は減少＞

開発商工省によると、2008 年のブ

ラジルの輸出額は 1,979 億 4,200 万ドル、輸入額は 1,731 億 9,700 万ドルであった。前年比で輸出が 23.2%、輸入が 43.6% と高い伸びを示しているが、特に国内市場の拡大と 2008 年上

半期までのレアル高を背景に輸入が著しく増加した。2006年に464億5,700万ドルに達した貿易黒字は2007年には400億3,200万ドル、2008年は247億4,600万ドルと大幅に減少している。

輸出入の財別構成を見ると、輸出は航空機、乗用車を主とした工業製品（完成品）が約5割を占め、一次産品、半製品と続く（表1）。前年と比較すると、工業製品のエタノール、半製品の鉄鋼半製品、銑鉄が伸び率では高いが、金額ベースで見ると鉄鉱石、原油、大豆などの一次産品の増加が目立つ。一方、輸入では化学・医薬品や鉱産物などの原材料・中間財が約5割を占める。耐久消費財、中でも販売が拡大した乗用車や燃料及び潤滑油の伸びが大きいほか、生産活動に必要な原材料の輸入も堅調であった（表2）。輸出を一次産品が、輸入を好調な国内経済が牽引したと言えよう。構成比の変化では輸入が最大でプラスマイナス2%ポイント程度の変化であったのに対し、輸出は一次産品がプラス4.8%ポイント、工業製品がマイナス5.5%ポイントと一年間で大きく変化した。輸出額

の伸びは全体で23.2%であったが、工業製品が10.4%増だった一方、一次産品は41.5%増と大きく増加し、輸出額増加分の57.5%を占めた。もっとも、数量ベースでは一次産品は2.8%の増加であり、一次産品の価格高騰による影響が大きいと考えられる。

<2008年後半は輸出入とも減速>

2008年は年間ベースでは輸出入ともに過去最高額となったが、米国の金融危機に端を発する世界的な景気の低迷を受け、10月以降の第4四半期は輸出入ともに大きく減速した。

輸出は1月～9月合計で前年同期比29.4%増の伸び率であったのが、第4四半期は6.9%増と大幅に落ち込んだ。

輸入も軒並み減速し、1月～9月合計で前年同期比53.2%増から第4四半期は20.1%増となった。特に乗用車の輸入は97.9%増から第4四半期には24.6%増へと急ブレーキがかかった。

表 1 ブラジルの財別輸出額

(単位：100 万ドル、%)

	2007		2008		2008/2007	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
合計	160,649	100.0	197,942	100.0	37,293	23.2
一次産品	51,596	32.1	73,028	36.9	21,432	41.5
鉄鉱石	10,558	6.6	16,539	8.4	5,981	56.7
原油	8,905	5.5	13,556	6.9	4,651	52.2
大豆	6,709	4.2	10,952	5.5	4,243	63.2
半製品	21,800	13.6	27,073	13.7	5,273	24.2
鉄鋼半製品	2,340	1.5	4,002	2.0	1,662	71.0
化学木材パルプ	3,012	1.9	3,901	2.0	889	29.5
粗糖	3,130	2.0	3,650	1.8	520	16.6
銑鉄	1,867	1.2	3,145	1.6	1,278	68.5
工業製品(完成品)	83,943	52.3	92,683	46.8	8,740	10.4
航空機	4,719	2.9	5,495	2.8	776	16.5
乗用車	4,653	2.9	4,916	2.5	262	5.6
自動車部品	3,186	2.0	3,510	1.8	324	10.2
燃料	2,292	1.4	2,964	1.5	672	29.3
送受信機・同部品	2,353	1.5	2,550	1.3	197	8.4
Etaノール	1,478	0.9	2,390	1.2	912	61.8

出所：ブラジル開発商工省

表 2 ブラジルの財別輸入額

(単位：100 万ドル、%)

	2007		2008		2008/2007	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
合計	120,617	100.0	173,197	100.0	52,579	43.6
資本財	25,125	20.8	35,929	20.7	10,804	43.0
産業用機械	7,356	6.1	10,990	6.4	3,634	49.4
事務・科学用機器	5,502	4.6	7,085	4.1	1,583	28.8
非耐久消費財	7,776	6.5	9,816	5.7	2,040	26.2
食料品	2,082	1.7	2,812	1.6	730	35.1
医薬品	2,908	2.4	3,493	2.0	585	20.1
耐久消費財	8,251	6.8	12,709	7.3	4,458	54.0
乗用車	3,521	2.9	6,051	3.5	2,530	71.9
家庭用機械	1,578	1.3	2,488	1.4	911	57.7
個人用装飾品	1,839	1.5	2,412	1.4	573	31.2
燃料および潤滑油	20,085	16.7	31,466	18.2	11,381	56.7
原材料および中間財	59,381	49.2	83,277	48.1	23,897	40.2
化学・医薬品	15,672	13.0	21,184	12.2	5,512	35.2
鉱産物	11,631	9.6	15,673	9.1	4,041	34.7
輸送用機器・アクセサリ	8,472	7.0	11,677	6.7	3,206	37.8
中間製品(部品)	8,839	7.3	11,131	6.4	2,291	25.9
農業用原材料	5,529	4.6	10,955	6.3	5,426	98.1

出所：ブラジル開発商工省

＜中国が第2位の貿易相手国に＞

貿易相手国を見ると、米国、アルゼンチン、中国の3カ国合計で輸出入それぞれの約3割のシェアを占める(表3)。近年のブラジル貿易の特徴の一つとして、中国のプレゼンスが急速に拡大していることが挙げられる。1997年には輸出額で国別シェア2.1%(第12位)、輸入額で2.0%(第11位)であったのが、2003年頃から貿易額が増え始め、2007年には輸出で第3位、輸入で第2位となった。さらに2008年は中国向け輸出額は対前年比で52.6%増加、輸入も

58.8%増加し、アルゼンチンを抜き米国に次ぐ第2位の貿易相手国となった。年別の推移では、人民元に対しレアル安が進んだ2000年以降に對中輸出は増加、2003年に貿易黒字は24億ドルに達した。その後、レアル高傾向が進むと輸入が増え、2008年は36億ドルの赤字であった(図1)。なお、2008年後半は對中貿易も減速となった。輸出は1月～9月合計で前年同期比67.3%増から第4四半期は5.5%増、輸入は70.0%増から33.6%増となった。世界全体よりも減速の度合いが大きく、特に輸出の落ち込みが顕著に現れた。

表3 ブラジルの国別輸出入額

(単位:100万ドル、%)

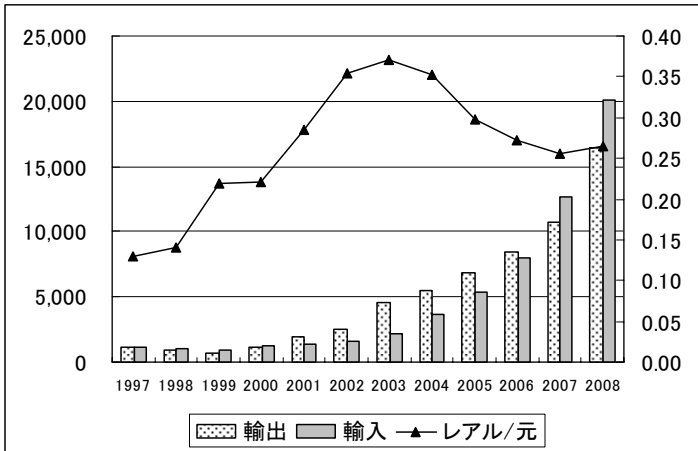
順位	輸出				輸入			
	2008				2008			
	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率		
1	米国	27,423	13.9	9.4	米国	25,627	14.8	36.9
2	アルゼンチン	17,606	8.9	22.1	中国	20,040	11.6	58.8
3	中国	16,403	8.3	52.6	アルゼンチン	13,258	7.7	27.4
4	オランダ	10,483	5.3	18.6	ドイツ	12,025	6.9	38.7
5	ドイツ	8,851	4.5	22.7	日本	6,807	3.9	47.7

出所:ブラジル開発商工省

(注)増減率は2007年との比較

図1 対中輸出入額およびレアルの対人民元レートの推移

(単位： 左軸：100万ドル、右軸：レアル)



出所：ブラジル開発商工省およびブラジル中央銀行、中国人民銀行、IFS (IMF)

(注) 対人民元レートはレアルおよび人民元の対ドルレートから計算(レアルレートはブラジル中央銀行、人民元レートは 2007 年までを IFS、2008 年を中国人民銀行の月別期中平均から引用)

①輸出

先に述べたように、ブラジルの輸出額の約半分は工業製品が占めているが、対中国については大豆、鉄鉱石、原油といった一次産品が主たる輸出品目である(表4)。2008年では輸出上位3品目の大豆、鉄鉱石、原油合計で総輸出額の72.7%を占め、これらの品目はいずれも中国が重要な市場となっている。全世界に占める中国への輸出割合は大豆が48.6%

(国別シェア第1位)、鉄鉱石が29.5%(第1位)、原油が12.4%(第3位)である。前年と比べると、大豆油や航空機、マンガン鉱の伸び率が高いが、金額では大豆、鉄鉱石、原油の増加分が全体の約8割と、輸出増加の主要因となっている。輸出単価を見ると、大豆と原油が2008年第4四半期に下落したものの、年間ではいずれも前年を大きく上回った(図2)。

表4 中国への品目別（HSコード4桁）輸出額

(単位：100万ドル、%)

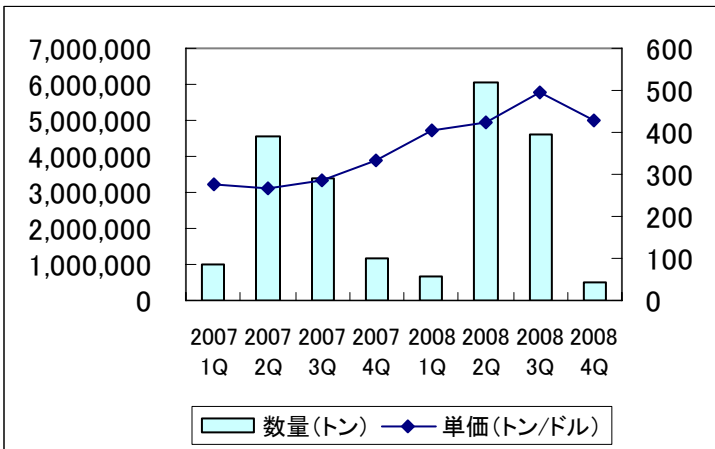
HS	品目名	2007	2008		2008/2007		※中国への輸出割合	
		金額	金額	構成比	増減額	増減率	2007	2008
	合計	10,749	16,403	100.0	5,654	52.6	6.7	8.3
1201	大豆	2,832	5,324	32.5	2,492	88.0	42.2	48.6
2601	鉄鉱石	3,710	4,886	29.8	1,176	31.7	35.1	29.5
2709	石油、歴青油(原油に限る)	840	1,702	10.4	863	102.7	9.4	12.4
1507	大豆油及びその分別物	318	830	5.1	512	160.7	18.5	31.1
4703	ケミカル・ウッドパルプ	386	615	3.7	229	59.5	13.1	16.3
7202	フェオアロイ	206	412	2.5	206	100.2	14.1	17.9
2401	たばこ、くずたばこ	271	367	2.2	96	35.4	12.4	13.7
4104	牛または馬の皮(毛の無いもの)	343	227	1.4	-116	-33.9	31.7	29.9
8802	航空機・宇宙機器	34	205	1.2	170	496.0	0.7	3.7
2602	マンガン鉱	13	196	1.2	183	1406.9	11.7	31.8

出所：ブラジル開発商工省

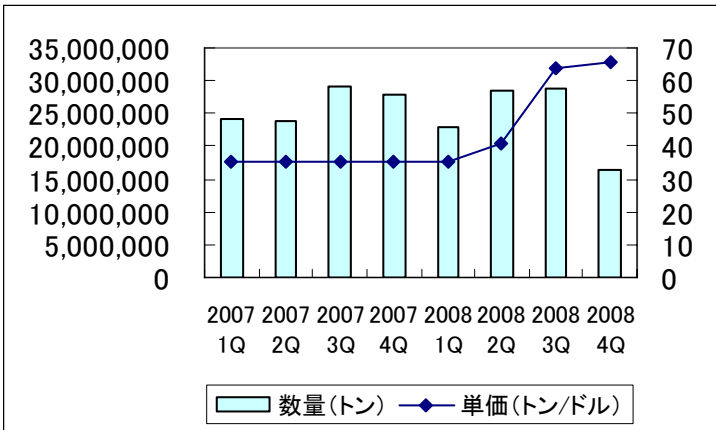
図2 中国への大豆、鉄鉱石、原油の輸出量と単価の推移

・大豆

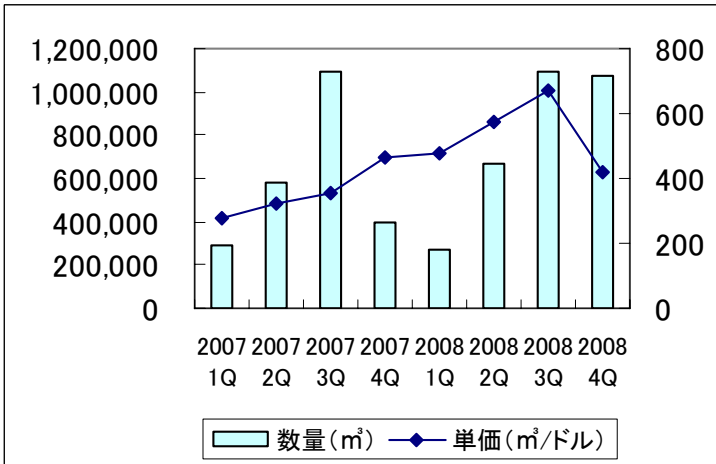
(左軸：数量 右軸：単価)



・鉄鉱石



・原油



出所：ブラジル開発商工省

(注) 単価は輸出額／数量で計算

②輸入

中国からの輸入のほとんどをHS84類（電気機器）、85類（機械）が占めている（表5）。84・85類の占める割合は1998年が33%であったのに対し、2008年は50%に増加した。上位の輸入品目を見ると、有線用電話・電信用機器（輸入の半分以上は部品が占める）、事務用機器の部品、液晶デバイスといった部品関連が多い。これらの品目は輸入額が増加し、シェアも5割前後と高くなっている。製鉄などに使われるコークスの輸入額も前年比190.8%増と大幅な増加であったが、輸入量は8.5%しか増加しておらず、価格の高騰が輸入額に反映されたと見られる。

部品輸入が増加した要因として、

レアル高傾向が続いた影響などにより、企業がブラジルでの現地生産から輸入調達にシフトしたことが挙げられる。日本の村田製作所はマナウスでコンデンサなどを生産していたが、2007年12月に工場の撤退を発表、販売会社による輸入販売へと切り替えた（村田製作所ニュースリリース）。電子部品の需要拡大に対応するためには現地での生産コストダウンより日本、中国などへの生産集約が必須であると判断されたためである。その他にも、パナソニックエレクトロデバイス株式会社はトランス等の製造を行っていた製造拠点を競争激化による部品価格下落のため2007年4月に解散している（パナソニックプレスリリース）。

表5 中国からの品目別（HSコード4桁）輸入額

（単位：100万ドル、%）

HS	品目名	2007		2008		2008/2007		※中国からの輸入割合	
		金額	金額	構成比	増減額	増減率	2007	2008	
	合計	12,621	20,040	100.0	7,419	58.8		10.5	11.6
8517	有線用電話・電信用機器	1,283	1,984	9.9	701	54.7		42.2	43.9
8473	事務用機器の部品・附属品	489	833	4.2	344	70.2		45.6	58.2
9013	液晶デバイス、レーザー等の光学機器	508	821	4.1	312	61.3		44.5	51.4
2704	コークス、半成コークス、レトルトカーボン	206	599	3.0	393	190.8		66.2	65.8
8471	自動データ処理機械	481	592	3.0	111	23.1		34.9	36.7
8529	TV、ラジオ等の無線通信機器の附属品・部品	244	556	2.8	311	127.3		27.6	33.0
8542	集積回路	335	506	2.5	171	51.0		11.3	14.6
8443	印刷機及びインクジェット方式の印刷機、印刷用補助機械	313	372	1.9	59	19.0		25.0	24.7
8504	トランス、整流器等	281	365	1.8	84	29.9		44.1	43.8
3105	鉱物性肥料及び化学肥料(二以上の成分を含有)	216	273	1.4	57	26.5		17.3	11.6

出所：ブラジル開発商工省

電気機器、機械分野以外にも中国の輸入シェアが高い製品は多い。2008年時点で玩具(HS9503)の輸入の82.4%、旅行用具・カバン(HS4202)の80.3%は中国製品である。また、合成繊維の織物(HS5407)の58.2%、メリヤス編物およびクロセ編物(HS6004)の78.8%、男子用スーツ類(HS6203)の75.2%、その他のメリヤス編物およびクロセ編物(HS6006)の93.1%など、繊維関連の多くの品目も中国のシェアが非常に大きく、繊維分野では2005年にセーフガードの発動が検討された(注)。

< ブラジル輸出市場に食い込む中国製品 >

前述したように、ブラジルと中国の貿易は大きく捉えれば一次産品の輸出と電気・機械関連部品の輸入の補完関係が成立している。しかし、人民元に対しレアル高の傾向が続いたことが、中国製品の競争力をいっそう高め、ブラジル国内の部品企業や繊維企業などにとって不利な状況をもたらすこととなった。さらに、ブラジル国内だけでなく米国やアル

ゼンチンといった輸出市場においても中国製品との競合が生じている。

米国およびアルゼンチンの貿易統計によると、ブラジル・中国からの輸入はそれぞれ米国では中国が、アルゼンチンではブラジルが金額で大きく上回る。しかし、2005年から2007年の米国市場における伸び率はブラジルが4.9%に対し中国は32.0%、アルゼンチン市場ではブラジルが39.2%に対し233.2%と両国とも中国が上回った。その結果、2007年における中国の国別シェアは米国で16.4%、アルゼンチンで11.4%に増加した。一方でブラジルのシェアはそれぞれ1.3%、32.5%と減少となった(表6)。

さらに、ブラジルからの主な輸入品に絞り込むため、上位100品目(HS4桁ベース)に限定して2005年と比較したのが表7である。表6よりもブラジルのシェアが増加し、中国のシェアが減少するのは当然であるが、推移を見ると米国・アルゼンチンともにブラジルのシェアが後退し、中国のシェアが伸びている。特にアルゼンチンでの伸び率は全品目を対象とした場合よりも高かった。

品目で見ると米国では革製の甲の履物 (HS6403) や自動車部品 (HS8708) でブラジルからの輸入額が減少した一方、中国は増加した。アルゼンチンではトランス・整流器 (HS8504) は 2005 年と 2007 年の間に中国からの輸入額がブラジルを上回った。他

国からの輸入もあるため、これだけでは中国製品がブラジル製品のシェアを駆逐しているとは断定できないが、ブラジルの主要輸出品が中国製品との激しい競争にさらされていることは言えよう。

表 6 米国およびアルゼンチンのブラジル・中国からの輸入推移

(単位：100 万ドル、%)

	相手国	2005		2007		2007/2005
		輸入額	構成比	輸入額	構成比	増減率
米国	ブラジル	24,436	1.5	25,644	1.3	4.9
	中国	243,470	14.6	321,443	16.4	32.0
アルゼンチン	ブラジル	10,435	36.4	14,523	32.5	39.2
	中国	1,528	5.3	5,093	11.4	233.2

表 7 米国およびアルゼンチンのブラジル・中国からの輸入推移
(上位 100 品目)

(単位：100 万ドル、%)

	相手国	2005		2007		2007/2005
		輸入額	構成比	輸入額	構成比	増減率
米国	ブラジル	21,493	2.7	22,672	2.4	5.5
	中国	66,165	8.2	85,817	9.1	29.7
アルゼンチン	ブラジル	8,498	51.8	11,919	45.5	40.3
	中国	601	3.7	2,537	9.7	322.4

出所：表 6、表 7 とともに米国商務省、アルゼンチン国家統計センサス局

(注) 対象品目を米国、アルゼンチンそれぞれについて、ブラジルからの各年の輸入上位 100 品目 (HS4 桁ベース) に限定した。

＜2009年のブラジル貿易は縮小の見通し＞

世界的な経済減速の影響は2009年に本格化すると見られており、輸出は1999年以降、輸入は2002年以降成長を続けてきたブラジルの貿易も縮小に転じると予想される。ブラジル貿易協会（AEB）は今年1月に2009年の貿易額を輸出は17.6%減の1631億5000万ドル、輸入は15.7%減の1460億3000万ドルと発表した。2009年1月の貿易統計では、輸出は前年同月比で26.3%減、輸入は16.6%減であった。

輸出を牽引した一次製品の価格は下がり、乗用車、航空機などの工業製品もすぐに需要を回復するのは難しい。輸入については2008年後半からレアル安傾向となったため原材料の輸入価格が上昇、製品の価格に反映されるのは避けられないほか、乗用車をはじめとした国内消費も減速しており、急速に増加してきた輸入もブレーキがかかると見られる。

対中貿易は輸出が一次製品、輸入が電気・機械関連部品を主としているため、これらの輸出入動向に注目

する必要がある。2008年の輸出額増に大きく寄与した一次製品の価格の推移は輸出額全体に大きな影響を及ぼすであろう。さらに為替レートは2008年9月以降人民元に対しレアル安の傾向となっており（図3）、この傾向が続けばブラジル製品の輸出に有利に働く。中国は市場として今後も有望であり、様々な製品の輸出拡大が期待されている。ブラジル輸出・投資振興庁は北京でビジネスセンターを開設、2年間に52都市で輸出促進のためのセミナーを実施すると2008年7月に発表した（ブラジル輸出・投資振興庁ニュースリリース）。輸入に関しては工業製品全体の需要が落ち込んでいるため、レアル安による輸入コスト増加も相まって部品輸入も減速すると見込まれる。今後、レアル安傾向が長期化するとなるといったんは中国にシフトした部品調達が国内調達へと切り替わる可能性も出てくると考えられる。

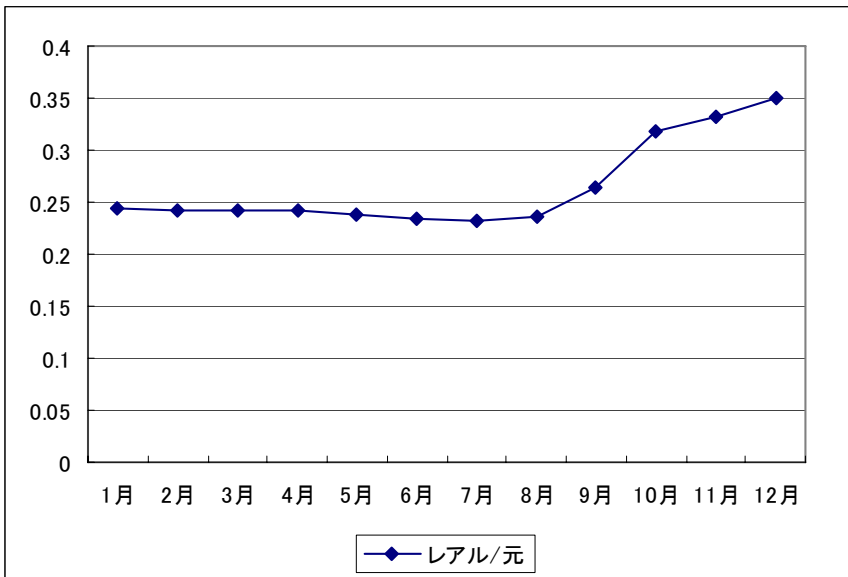
（注）中国製品の増加に対し、ブラジル政府は2005年10月にセーフガードに関する法令を制定した経緯がある。その後、2006年2月に中国側と繊維

製品の自主輸出規制について合意、
発動は回避された（ジェットロホーム

ページ「ブラジル経済動向」および
「通商弘報」2006年5月24日付）。

図3 2008年のレアルの対人民元レート推移

(単位：レアル)



(出所) ブラジル中央銀行、中国人民銀行

(注) レアルおよび人民元の対ドルレート (レアル/米ドル、人民元/米ドル) から計算